

社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成
(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：山形大学（総括責任者：小山 清人）

プロジェクトの概要

理工学研究科をテニュアトラック推進特区に選定し、国際公募により教員を公募、任期制を導入する。本事業をテニュアトラック制度導入のパイロットプログラムと位置づけ、事業終了後全学展開を目指す。プログラム管理のためプログラムオフィサーを、テニュアトラック若手研究者の教育・研究・マネジメント能力向上のためシニアメンター、社会的知性（Social Intelligence quotient:SQ）トレーニングコーチを配置し、国際的な競争環境の下で新領域の開拓ができ、卓越した SQ の能力を駆使して研究チームを強力に牽引していく、チェンジマインドを持った若手リーダーを育成する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	b	a

総合評価： A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

新領域の開拓・グローバルな連携リーダー・チェンジマインドを三つの柱とした若手研究者の養成という明確な目標の下、テニュアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）の養成においては、教育・研究・マネジメント能力向上に重点を置き、そのため、企業で研究開発マネジメントの経験者をプログラムオフィサー（PO）として採用し、更に SQ トレーニングコーチを配置して、育成環境の強化が優秀な人材の養成につながったことは評価できる。テニュアトラック制（以下、「TT 制」という）の学内規程を充実させてスタートアップ支援制度を創設するなどの改革を進め、全学展開につながる基盤は整備されており、今後、人文科学系を含む全学に普及・定着し、本プロジェクトの成果が活かされていくことを期待する。

- ・ **目標達成度**：継続的に TT 若手を採用し、既に目標を上回る 7 名がテニュア審査を受け、全員が准教授に採用されており、養成環境の十分な整備によって優秀な若手研究者を育成したことは評価できる。特に、SQ プログラムなどを活用した養成は大学人としての人間力向上などにも成果を上げており、また、TT 制の全学展開を図るために新規採用教員のスタートアップ支援制度に関する規程などの学内規程の整備が行われ、TT 制の全学展開につながる基盤が整備されたことは評価できる。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：公募は適切に行われ、高い応募倍率の中、工夫された審査過程で優秀な TT 若手の採用に成功していることは評価できる。当初外国籍や女性研究者の採用者数が少なかったが、その後の公募での工夫や、育成環境の整備などによって、外国籍、女性

研究者について各2名を含む12名のTT若手を公正で透明性の高い審査で採用している。また、外部評価者を含む厳正で透明性の高い業績評価が実施されており、今後のTT制に活かすことを期待する。

- **制度設計に基づく実施内容・実績：** 公募・審査および年次・中間評価では外部委員を含む委員会を構成し、公正で透明性の高い形で制度化を行っている。また、社会的知性向上のための「SQプログラム」をトレーニングコーチやPOの指導・助言の下で実施し、多様な取組へのTT若手の参画などを通じた育成制度が充実していることは評価できる。また、企業での研究マネジメントについて経験豊かなPOの採用やシニアメンターの配置など、育成に効果のある制度としたことは評価でき、これらの特長ある取組が継続されることを期待する。
- **制度設計に対するマネジメント：** 統括責任者である学長のリーダーシップの下、明確な実施体制が作り上げられており、「テニュアトラック推進会議」を実施部門であると共にチェック部門として位置づけ、年度計画の策定、実施内容に対する点検・評価、その点検・評価を反映した年度計画の策定というサイクルにより女性研究者の採用や、全学展開するための必要施策を決定しており、PDCAサイクルを効率的に回していることは評価できる。
- **実施期間終了後における取組：** TT制の効果についての理解も高まり、自主財源によるTT制の継続のための諸規則の制定と、独自の支援制度（研究費支援制度）の構築が行われていることは評価できるものの、TT制を継続するための体制を維持できるか懸念がある。今後は、これまでの工学系を中心として進められて成果を上げているTT制の環境整備を活かして、機関の明確な意志により、研究費支援のみならず、人的支援環境や研究環境整備のための予算の確保に努めつつ、人文科学系を含む全学にTT制を定着させることを期待する。
- **中間評価の反映：** 女性研究者への配慮の指摘に対しても、全学的な環境整備と公募に対する工夫などで成果を上げていることなど、中間評価への対応は概ね適切である。